

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E142J012		彫刻 (Sculpture)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	1	3	教育学部			氏名 村上 佑介 E-mail y-murakami@oita-u.ac.jp 内線 7594											
授業の概要	具象彫刻(頭像制作)を通して、人体彫刻の構成要素について理解を深め、それらを自己の作品に効果的に表現出来るよう具体的に研究する。また、制作を通して立体表現に関する技術を習得する中で、教育の場における彫刻指導の内容や方法について考察し、彫刻指導者としての資質を養う。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	対象(頭部)を観察し、立体的に表現することができる。																
目標2	塑像に使用する道具を適切に使用することができる。																
目標3	中等教育で必要な彫刻指導の知識と技術を習得し、それを基に作品について説明することができる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	「ガイダンス及び人体像について」：人体像の構成要素に対する説明を行い、本授業の目的・目標を明示し、課題意識を与える。																
2	「モデルを用いた制作 スケッチ」：スケッチにより対象を観察する力を養い、完成作品をイメージする。																
3	「モデルを用いた制作 芯棒づくり」：与えられた材料を用い、芯棒を制作する。																
4	「モデルを用いた制作 モデリング(基礎的な粗付け)」：粗付けにより基礎を作る。																
5	「モデルを用いた制作 モデリング(粗付け)」：粗付けにより基礎を作る。																
6	「モデルを用いた制作 モデリング(大まかな面による構成)」：面で形をとらえる。																
7	「モデルを用いた制作 モデリング(大まかな面による構成)」：面を意識しながら制作する。																
8	「モデルを用いた制作 モデリング(細かな面による構成)」：より細かな面を意識しながら制作する。																
9	「モデルを用いた制作 モデリング(細部成形)」：表面の凹凸を意識し制作する。																
10	「モデルを用いた制作 モデリング(仕上げ)」：粘土原型を仕上げる。																
11	「型取り技法」：完成した粘土の原型作品を石膏型取りする(雌型)。石膏技法に関する理解を深める。																
12	「型取り技法」：完成した粘土の原型作品を石膏型取りする(雄型)。石膏技法に関する理解を深める。																
13	「型取り技法」：完成した粘土の原型作品を石膏型取りする(割り出し・修正・着色)。石膏技法に関する理解を深める。																
14	「型取り技法」：完成した粘土の原型作品を石膏型取りする(着色・仕上げ)。課題作品として提出をする。																
15	「総括・講評会」：提出された課題作品をもとに講評会を行い、本授業における成果と課題を理解する。																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認	制作中に各個人作品の指導のなかで、確認、意見交換を行う。					工 夫 そ の 他 の	なし。									
	B:意見の表現・交換	総括・講評会・レポートにより行う。															
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	市内にあるパブリックアートや、美術館の展示作品を鑑賞し、人体彫刻についての理解を深める(5h)。															
	事後学修	制作中の技術や、石膏を使用した技法の工程について復習をする。また、講評会での意見を自主制作活動へ反映させる(10h)。															
教科書	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。																
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・京都造形芸術大学編『立体造形を学ぶ』角川書店、1998 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年告示) ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』(平成30年7月) 																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	スケッチ及び完成作品の提出	70%															
	講評会における発表およびレポート	30%															
注意事項	実習では汚れてもよい服装・靴を着用のこと。																
備考	原則として、彫刻、を履修済み、もしくは履修中の者を対象とする。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	特別支援学校教諭（美術）、高等学校教諭（美術）
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし。
実務経験を いかした教 育内容	中学校および高等学校の立体造形指導に必要な知識と技能を習得する。